

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年6月25日現在

機関番号：32412

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21500239

研究課題名（和文）分析書誌学の図書館システムへの応用とその意義に関する実証的研究

研究課題名（英文）A Practical Study of the Application of Analytical Bibliography to the Library Systems and Their Meaning.

研究代表者

若松 昭子 (AKIKO WAKAMATSU)

聖学院大学・政治経済学部・教授

研究者番号：80331354

研究成果の概要（和文）：

19世紀後半から20世紀初頭にかけて起こった分析書誌学は、個々の書物の出所や出版背景を明らかにしたばかりではなく、15世紀後半の印刷術伝播と近代的書物誕生のプロセスまでも描出した。分析書誌学が学問として発展するに伴い、研究と実践が次第に乖離していく中で、研究成果を図書館現場へ還元し、図書館資源の体系化やコレクションの構築に応用した書誌学者たちがいた。本研究では、図書館における理論と実践の融合の一形態として、分析書誌学の図書館システムへの応用の過程と実際、またその意義について実証的に考察する。

研究成果の概要（英文）：

Analytical Bibliography, which was born and developed from the second half of 19th century to the first half of 20th century, not only tells the origins of books but also elucidates the history of printing in the latter half of 15th century Europe. As the learning developed in this new field, research and practice separated gradually. However, some bibliographers applied the results of study of analytical bibliography to their library organizations and collection buildings. This study examines the practices and their meaning of the application of Analytical Bibliography to the library systems as a case where theory and practice grow together.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,600,000	480,000	2,080,000
2010年度	900,000	270,000	1,170,000
2011年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：情報学・図書館情報学・人文社会情報学

キーワード：図書館情報学、分析書誌学、図書館システム、印刷史、インキュナブラ

1. 研究開始当初の背景

グーテンベルクが印刷術を開始した15世紀中頃から、活版印刷がヨーロッパ各地に広がりを見せる15世紀末までの約50年間に印

刷された書物は、印刷文化の草創期という意味で「インクナブラ (incunabula)」(わが国では「インキュナブラ」の語が多く使われるが、ここではラテン語の読みに最も近い「インクナブラ」を用いる) と呼ばれる。インクナブラの多くには、印刷者、印刷地、印刷年月などの表記がない。書物の出所が不明であれば、正確な書誌を作成することは困難である。分析書誌学 (analytical bibliography) は、19 世紀後半のヨーロッパにおいて、正確な書誌作成を目的に、書物の形態的な側面、例えば活字、紙、インク、装丁、編集工程等を研究することによって、インクナブラの印刷関連事項を同定することから始まった。20 世紀初頭には、多くのインクナブラの印刷関連事項が明らかとなり、その結果、15 世紀後半ヨーロッパにおける印刷術伝播と書物形態変容の歴史が明らかになっていった。

分析書誌学が誕生し発展した背景には、出版業者、古書業者、図書館員など異なる分野の人々の知の交流があった。ケンブリッジ大学図書館のブラッドショー (Henry Bradshaw, 1831-86) は、ロンドンの印刷業者ブレイズ (William Blades, 1824-90) やオランダ国立図書館 (Koninklijke Bibliotheek) のホルトロップ (Johannes W. Holtrop, 1806-1870) 等の書物研究に適切な助言を与え続け、書物研究に科学的方法を導入することに成功した。それを集大成したのは、大英博物館 (The British Museum, 以下 B M) のプロクター (Robert G. C. Proctor, 1868-1903) である。彼は、活字体を手がかりに個々の書物の出版者、出版地、出版年などを解明し、インクナブラを印刷史の観点から再編成した。

プロクターは、B M が所蔵する約 1 万点のインクナブラを、まず印刷開始の早い国順にわけ、次にその中を印刷開始の早い都市順、更にその中を印刷開始の早い印刷者順、またその中を作品の刊行年順に分類配列した。印刷術の編年的、地理的な伝播過程を示すこの資料組織化のシステムは、プロクター分類法と呼ばれる。彼の研究と実践は、それまで曖昧であった 15 世紀後半における印刷術の伝播過程の全容を浮かび上がらせた。それによって、書物研究もより精緻なものへと発展し、研究対象もインクナブラ以外の近現代の印刷本へと拡大された。その結果、分析書誌学の研究の場は図書館現場から大学の研究室へと移行していった。

他方、20 世紀初頭の図書館現場において、自館資料の組織化や新たなコレクション構築にプロクター分類法の応用を試みた書誌学者たちがいた。ロンドンにあるセントブライド図書館 (The St Bride Library, 以下 S B L) のペディー (Robert A. Peddie, 1870-1951) は、デューイ十進分類法を基礎としたニューヨーク・グロリアクラブ図書館

(The Grolier Club Library, 以下 G C L) の分類法に、プロクター分類法を組み合わせ、S B L 独自の分類法を考案した。そして、印刷術伝播を歴史地理的に表現する方法を、インクナブラのみならず、S B L 所蔵の印刷専門資料全体に拡張したのである。

またアメリカでは、インクナブラ収集を開始したニューベリー図書館 (The Newberry Library, 以下 N B L) のバトラー (Pierce Butler, 1884-1953) が、ペディーからの助言を受けつつ小規模ながら質の高い印刷史コレクションを構築した。このコレクションは、プロクター分類法に則って収集されたヨーロッパ各都市・各印刷所の代表的インクナブラを通して、印刷術伝播の歴史を具視化できるものとなっている。

これら書誌学者間交流についての研究は、分析書誌学の成立初期を対象としていくつかなされている。ストークス (Roy Stokes) やヘリング夫妻 (Wytze and Lotte Hellinga) らは、ブラッドショーらの書簡や交流記録の考察を通して、分析書誌学の基礎が築かれる過程を考察した。これらは詳細な研究として高く評価されているが、いずれも文献研究が中心であり、実証的な考察としては不十分である。また、分析書誌学の図書館現場への応用例を取り上げた研究というのはこれまでにほとんど見られない。

2. 研究の目的

研究代表者は、平成 18 年度からの科研費補助金による研究の中で、19 世紀後半から 20 世紀初頭における分析書誌学の萌芽と発展の経緯を、書誌学者間の知的交流と彼らの研究成果、特に彼らの理念の具体化として構築された図書館システムに注目して考察した。その結果、分析書誌学の一つの学術的系譜が明らかになった。即ち、分析書誌学は、彼らの学術的交流を通して集大成され、応用段階でイギリスからアメリカへと導入されていったのである。本研究では、研究代表者のこれまでの研究を基礎として、研究の対象時期を 20 世紀前半へと移し、分析書誌学の応用の過程と実際、さらにこれらの実践の意義について実証的に考察する。

3. 研究の方法

研究は 3 年計画とし、分析書誌学の成果として編成されたプロクター分類法を図書館資源の組織化に採用している図書館の例として、B M、ロンドンの S B L、シカゴの N B L の資料組織化について調査した。これらの図書館については、これまでも実施調査を

行っていることから文献研究を主体としつつ、補足的に実地調査を行った。文献研究では、それぞれの図書館について、①分類法考案の背景や考案者の理念、②分類法の特徴(分類体系、分類構造、分類の展開可能性、記号の簡潔性、主題の包括性等)、③主題を持たない総記類や形式区分への対応、④他の分類法との関連、などを中心に考察した。実地調査では、①分類体系の実際、②検索の容易性、③目録との関係、③新主題への対応、などに焦点を当て、利用と運用の課題について検分した。

4. 研究成果

(1) 専門図書館における分析書誌学研究成果の応用

平成 21 年度は、主に SBL にて資料組織化の実態を調査した。同館分類法は、ニューヨークの GCL 分類法の主題領域の枠組に、プロクター分類法を合成することで、資料の印刷史的体系化を実現するものである。SBL は、第 2 次大戦後、著しい経営危機に直面したためインクナブラを売却し、近現代における印刷技術分野の資料収集に重点を移した。そのため、活字の実例や試刷、印刷機模型、デザイン案、イラスト原図、写真、パンフレット、新聞記事など図書以外の資料も多く、これら多種多様な全資源はプロクター分類法によって体系化されている。

まず、SBL 分類法の特徴を理解するため、収集した文献をもとに GCL 分類法やデュイ十進分類法を参照しつつ全体の構成を分析した。次に、SBL を訪問し資料体系の実際を検分すると同時に、ロッシュ現館長へのインタビューを通し、SBL 分類法を考案した初代館長ペディーの意図を確認した。書物愛好家団体によって設立された GCL は、主として書物デザインや書物制作の専門家を対象とした図書館をめざしたが、印刷研究所附属図書館として設置された SBL は、書物研究者を対象とする専門図書館を企図していた。こうしたそれぞれの図書館の目的の違いが分類体系にも反映されたのだとロッシュ館長は述べる。印刷分野の研究支援を主要目的とする SBL にとって、印刷史的細分を可能にするプロクター分類法が有効であるとペディーは判断し採用を決定したと推測することができる。

現在、SBL のほとんどの資料は閉架式の書架に保存されている。実際の書架上の分類では、資料形態や書架スペース等の問題もあって別置や部分的な編成替えも行われている。しかし、目録上の書誌分類においてはプロクター分類法が反映された全体像を明確に捉えることができる。

平成 22 年度は、プロクターの研究仲間であったマンチェスター大学のダフ (E. Gordon Duff, 1863-1924)、および、分析書誌学の創始者の一人であるオランダのホルトロップについて調査した。

初期印刷本を対象とした分析書誌学の成果は、書物史研究を大きく発展させた。特に、プロクターによって行われたインクナブラの大規模な活字研究は、印刷の歴史地理的な発展プロセスを描出する結果となり、科学的手法にもとづいた書物研究の実現に大きく貢献したと評価されている。しかし、プロクターの研究上の師でもあり友人でもあったダフについては、これまであまり取り上げられることはなかった。そこで、プロクターとダフの学術的な影響関係について調査するため、ダフが図書館長を勤めていたマンチェスター大学ジョン・ライランズ図書館 (The John Rylands Library) を訪問した。当該館に保管されているダフの書簡や未刊行の原稿、また彼の編纂したカード目録などを通して、ダフも比較的早い段階から初期印刷本の歴史地理的編纂に強い関心を持っていたことがわかった。

また、分析書誌学のもう一つの発祥地であるオランダ訪問を実施した。これまではロンドンを中心とした分析書誌学の流れを見てきたが、その源泉をより詳細に見ることの必要性を認識するにいたった。そこで、当該分野の創始者の一人であるホルトロップが館長を勤めていたハーグのオランダ国立図書館を訪問し、ホルトロップの編纂による、オランダ低地地方のインクナブラ目録の閲覧ならびに関連資料の収集を行った。ホルトロップが当該目録を編纂した頃は、インクナブラの多くはいまだ正確な書誌事項が判明されていなかった。そうした状況の中で、インクナブラの編年順目録の編纂に着手したことは斬新で画期的であり、その後の分析書誌学の方向性を決定付ける重要な試みとなったものと思われる。

(2) 一般図書館における分析書誌学研究成果の応用

平成 23 年度は、これまで収集した資料をもとに研究の各テーマを総合的に考察するとともに、補足調査として約 2 週間の海外調査を行った。その結果、次の事柄が明らかになった。

19 世紀末にプロクターによって行われたインクナブラを対象とする分析書誌学の研究成果、すなわちプロクター分類法は、印刷の歴史地理的な発展過程を明らかにし書物史研究の発展に寄与した。また、プロクター分類法は、BM のインクナブラを歴史的観点によって再編成することを可能にしたばかり

りでなく、ロンドンの印刷史専門図書館SBLの資料組織化やシカゴのNBLの印刷史コレクション構築に応用されるなど、図書館資源構築において実質的な影響を与えた。

しかし、ヨーロッパの古い図書館では各館が独自にインクナブラを組織化してきた経緯があり、分析書誌学研究の盛んであったイギリスやオランダ以外でプロクター分類法が資源構築に影響を及ぼしたと思われる例は見られない。その理由の一つとして以下のことが考えられる。王室図書館や宮廷図書館の蔵書を引き継いだ伝統的な図書館では、結果として多くのインクナブラを所蔵しているが、それらのコレクションは印刷史を念頭におきながら体系的に収集されたとは必ずしも言えないからである。

例えば、起源は16世紀中葉まで遡る、世界でも最大級の図書館の一つであるミュンヘンのバイエルン州立図書館(Bayerische Staatsbibliothek)では、代々のバイエルン王が収集したインクナブラも含め、BMの約3倍ものインクナブラを所蔵している。当該館のインクナブラ部門の主任であるワグナー(Bettina Wagner)氏は、組織体系と利用の方法などについて次のように語った。当該館では、プロクター分類法が考案される以前から既に独自の分類システムを持っており、膨大な量のインクナブラを新たな体系によって再編することは困難である。また一般資料と違って、インクナブラの場合は基本的に館内利用に限定されている。そのため、各館で長い間使用されてきたシステムの方が慣れ親しんでいて使い勝手がよい。氏は、これらの理由から、プロクター分類法によって自館のインクナブラを再編する必要性はほとんどなかったと述べる。

(3) 考察

専門主題に特化しない一般の図書館において、プロクター分類法が図書館資源の組織化に特段の影響を与えてきたわけではない。プロクター分類法が図書館の資料組織化に応用された例は限られており、それは、分析書誌学発祥の地であるイギリス・オランダの大図書館や、米英の書物史分野の研究専門図書館であった。しかし、研究者の研究活動を推進するうえでこれらの図書館が果たした役割は大きいと考える。19世紀後半から20世紀初頭にかけて分析書誌学が急速に発展した理由の一つには、研究対象となるインクナブラを共通項として、異なるバックグラウンドも持つ書誌学者たちが活発な学术交流を行ったこと、さらに彼らの研究活動を支えその研究成果を具現化した専門図書館が存在したことがあげられる。すなわち、SBLやNBLは、研究者に専門資料や情報を提供

し、研究交流の場を用意しただけではなく、研究者らがその成果を実際に検証できる場としても機能していたと行うことができよう。

1980年、インクナブラの世界総合目録データベース(ISTC)の構築が大英図書館の主導で開始された。これによって、プロクター分類法はインクナブラの主要な書誌の一つとして国際的に参照されるようになった。今日ではインクナブラの研究が国際性を増し、また自館の貴重な文献情報をWeb上で館外公開する動きも活発になった。それに伴い、プロクター分類法は検索や参照用ツールとしてその重要性を増してきている。

本研究を通して、分析書誌学の成立と発展の段階において様々な研究者間交流があったこと、またそれらの研究活動を支える図書館では理論と実践の融合が試みられたことがわかった。図書館の基本的システムを構成する資料体系の枠組みには、考案者の理念や目的、また彼らの相互交流や影響関係が具体的な形で現れている。ペディーの編纂した分類法の構造や、バトラーの構築したコレクションの内容、さらにはホルトロップやダフが編成した目録などにも、彼らの思想や理念の交流、またその影響関係をみることができた。

図書館情報学分野においては、研究によって理論を深めていくとともに、その理論や研究成果が図書館現場において応用され活用されていくことが重要である。SBLやNBLにおけるプロクター分類法の採用は、分析書誌学の研究成果を資料組織に応用した例であり、理論と実践を融合する優れた図書館実例といえよう。これらは、印刷史という特定分野に限定された図書館の実践例ではあるが、研究活動を支える専門図書館として専門資料をどう収集し構築するかという根本的課題に対し、有益な示唆を与えるものと考える。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

- ①「日本における大学の学術情報発信システムの発展と課題」若松昭子
『聖学院大学論叢』(査読無)第24巻第1号、p.161-171, 2011.
<http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/>
- ②「大学から地域の子どもたちへの研究成果発信：ひらめきときめきサイエンス「本を解剖する」の実施とその意義」若松昭子
『図書館情報学研究 [聖学院大学]』(査読無)第5号、p.1-7. 2009.

〔学会発表〕(計1件)

- ①「コレクション形成と主題表現の可能性」
若松昭子

日本図書館文化史研究会 2009 年度研究
集会. 2009 年 9 月 14 日, 皇學館大學(三
重県)

[http://jalih.jp/publish/newsletter/
NL0110p.pdf](http://jalih.jp/publish/newsletter/NL0110p.pdf)

〔図書〕(計1件)

- ①『学校図書館メディアの構成』(共)
「シリーズ学校図書館学」編集委員会,
全国学校図書館協議会発行, 199p. 2010.
執筆箇所: 第1章第2節「学習環境の変
化と学区図書館メディア」第2章「学校
図書館におけるメディアの種類と特性」
若松昭子 p.20-41.

〔産業財産権〕

- 出願状況(計 件)

該当なし

- 取得状況(計◇件)

該当なし

〔その他〕

ホームページ等

[http://www.seigakuin.jp/course/library/
kyouin_02.html](http://www.seigakuin.jp/course/library/kyouin_02.html)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

若松 昭子 (WAKAMATSU AKIKO)
研究者番号: 80331354

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし